

岩城先生叙勲



本学名誉教授・理事の岩城隆利先生が、今年春の叙勲で勲三等瑞宝章を受章されました。先生には、1964年の大学開学時から1981年3月に定年退職されるまでの間、ご担当の歴史学を教授いただいた他、学長代行、学生部長、図書館長などの要職を務められ大学の発展にご尽力をいただきました。

また、定年退職後も理事として学校法人の運営にご協力いただいております。なお、ホームカミングデーへの出席も、ご快諾をいただいております。

「岩城先生の叙勲を祝つ会」

日時 1990年11月4日(日)
18:00~20:00
会場 中日パレス
(名古屋市中区栄・中日ビル内)
会費 ¥10,000
納入方法 10月26日(金)までに同封の会費振込用紙にてお振込み下さい。(年会費と合算して下さい) なお、通信欄の上に岩城先生を祝う会と明記して下さい。

連絡先 名古屋学院大学同窓会室内
「岩城先生を祝う会」
※会費振込者には、追って詳細をご連絡します。



助教授 浅木 晋雄

今年の3年生については、以前の報告・質疑応答のタイプにかえて、対話を中心に演習を行っている。その内容も財政学に限ることなく、より幅広く扱うことにしている。時事的諸問題なども取り上げているわけである。

初めてのコンバを合宿で行ったことも今年変わったことのひとつである。5月中旬「浜名荘」で1泊ではあったが、海の幸を味わいながら、ゆっくりと親睦を深めることができた。



教授 梅本 和泰

早いもので本学へ赴任してまもなく20年になります。化学は「資源・エネルギー・環境」をテーマで、ゼミでは多量の資源・エネルギー消費を支えられている産業構造と避けて通れない環境問題について取り組んでいます。ハッカ園では研究材料に約60種のハッカの他に各種ハーブを育種栽培しています。

恩師の近況



助教授 内倉 滋

この春からドイツ語の勉強を、完全にゼロから始めました。考えてみれば全く新たなものに挑戦するということは、学部卒業以来無かったことで、こんなにも新しいものにチャレンジすることが楽しいことだったのかと、改めて感心し、学部入学当時の新鮮な感動をチョッピリ思い出しました。こうした喜びや感動をあらゆる分野について日々感じながら生きている学生諸君のことを、心底羨ましいと思っているこの頃です。



教授 大村 照夫

第一回のゼミ参加者は確か4名で、小じまりと楽しい会話がはずんだと思います。が、今では30人近いゼミ加入者を毎年社会に送り出しています。そのためゼミ生の名前を覚えられなくて、わずかに幹事さんの名前を記憶しているにすぎません。それでも近年は経済環境が好転し、ゼミの卒業生が企業のパンフレットを持って大学を尋ねてきます。誰だったかなと思いつつ話すうちに、かすかに彼の大学時代のイメージが浮かんできます。大学は人材の宝庫です。OBの方々の来校を歓迎します。

追悼・後藤宏行先生

五、六年前のことですが、後藤先生から、「毎日新聞社に良源(平安時代の僧)の伝記を頼まれたから、資料集めを手伝ってくれないか」と言われました。——この伝記が「女人成仏への開眼」(毎日新聞社刊)という歴史小説です。

当時先生は常任理事の要職にありましたが、ご自分で資料を集める時間はほとんどないと言っている状態でした。資料についての責任はすべて私にまかせられてしまっただけです。資料集めを依頼されて私が最初にやったのは、文献目録を漁ることもなく、歴史を調べることもなく、まず先生が描こうとしている良源という人物に感情移入することでした。

資料を探すために、図書館以外にも、京都のお寺や神田の古書店を歩き回りました。すると不思議なことに、千年前の人物と現代の私たちがどこかで呼応しているように感じられるのです。偶然に入った神田の古書店で、どうしてもほしかった資料を手に入れることができました。それは、先生が仰ったように資料が向こうから手招きしてくれていたとしか言いようがありませんでした。

私は、資料を探す仕事を図書館ですておりますが、このように何かに憑かれたように資料を探したのは、先生の仕事をはじめででした。「女人成仏への開眼」は、私に資料に対する眼も開かせてくれたのでした。

名古屋学院大学附属図書館勤務
山内隆文(1980年卒)